

# ユニセフお年玉募金にご協力ください

～わたしのお年玉を世界の子どもたちのために～

We Support



生活協同組合コープしが

コープしがは、世界中の子どもたちが十分なケアを受け、よりよい人生のスタートがきれるよう、ユニセフ募金に  
通年で取り組んでいます。この時期、世界の子どもたちへのお年玉として「ユニセフお年玉募金」を呼びかけています。  
2024 年度のお年玉募金総額は 193 万 4,900 円でした。  
ご協力ありがとうございました。



©UNICEF/UNI638107/Himu

洪水の後、感染症にかかり、診療所で治療を受けた子どもとお母さん（バングラデシュ）

## 募金でできる支援例



3円

子どもたちの免疫力を高め、  
感染症にかかりにくくする  
ビタミンAカプセル1錠



53円

重度の栄養不良からの回復に役立つ  
栄養治療食1袋



貯水容器



245円

10リットルの水を貯水・運搬できる  
折り畳み式の貯水容器1つ



2,416円

熱に弱いワクチンを一定の温度に  
保って運べるワクチン用保冷库1箱



ワクチン用保冷库

## ユニセフ（国連児童基金）とは

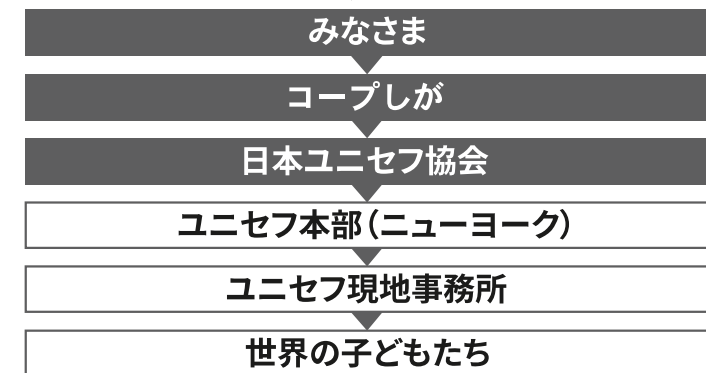
ユニセフは、世界の子どもたちの命と権利を守る主要な機関として、約 190 の国と地域で活動を行っています。  
今回お預かりするお年玉募金はユニセフの定めた優先順位に応じて、世界各地のユニセフの活動に活用される  
「一般募金」とミャンマーの栄養支援プログラムに活用される「指定募金」となります。

### 2024年度の生協による募金額

	全国の生協による募金※	コープしがによる募金
一般募金	146,832,054 円	4,938,486 円
指定募金	102,313,863 円	1,956,545 円
緊急募金	42,313,863 円	0 円
合 計	291,459,780 円	6,895,031 円

※2024年4月1日～2025年3月31日までの日本ユニセフ協会入金分を集計  
※2024年度は緊急募金の実施をしていません。

### ユニセフ募金の流れ



## 募金のお申込み方法（受付期間1月3回～2月1回）

### 共同購入・個配の方

■ 1月3回～2月1回注文分の、注文書（OCR）、  
インターネット、電話注文、FAX注文で受付

■ 1口は100円です。

□ 注文書（おもて）／上段の「募金」欄に募金いただく口数を記入。

□ インターネット注文／「注文番号で注文」を選び、  
注文番号 **209937** と募金口数（1口＝100円）を入力。

● インターネット画面では点数のみの表示で受付

□ ポイント募金 **209996** を6ケタ注文番号欄に記入し、100ポイント単位で**1**と記入ください。

□ 電話注文／「募金を●口」とお伝えください。  
（電話注文センター：0120-190-502）

□ FAX注文／ファクシミリ専用注文書の募金欄に募金口数を記入。

● 翌週の商品お届け明細に募金額が掲載されますので、ご確認ください。

注文書記入例（5口500円の場合）

増資欄 1口(千円)	出資金 現在高	ユニセフ 募金	ポイント還元 1ポイント単位でご記入ください
5		5	
万 千 円		千 百 十 円	

注文書記入例（500ポイント募金の場合）

注 文 番 号	注 文 数	注 文 番 号	注 文 数
209996	5		



©UNICEF Myanmar

ミャンマーの子どもたち

店舗の方 「受付期間」1月4日～2月1日

□ 店舗では、サービスカウンターの募金箱の  
「ユニセフ一般募金」にてお預かりしています。

みなさまからお預かりした募金は（公財）日本ユニセフ協会へ送金いたします。

◆お問い合わせ コープしが組織広報部 ☎0120-668-825

※2025 年 1 月時点の価格です ※輸送や配布のための費用は含まれていません

※コープしがのユニセフお年玉募金は寄付金控除の対象となりません。寄付金控除等を考えておられる場合は、直接（公財）日本ユニセフ協会へ募金をお願いします。



# 一般募金による支援活動例

## 保健・栄養

世界では1億4,800万人の5歳未満児が発育阻害に陥っているといわれています。すべての子どもが乳幼児期に十分なケアを受け、守られ、より良い人生のスタートを切ることができるよう、予防接種の普及、母乳育児の推進、栄養改善など総合的な支援を行っています。



© UNICEF/UNI707704/Sargi

### 2024年の成果例

**2億5,100万人の5歳未満児が、急性栄養不良(消耗症)早期診断のためのスクリーニングを受けました。**

## 教育

学校に通えない子ども(6-17歳)は、2億5,100万人にのぼります。男子も女子も平等に学ぶ機会を得、質の高い教育を受けられるよう、学習資材の提供、学校施設の設備、教員研修などを支援するほか、緊急事態下でも教育を途切れさせないための努力を続けています。



© UNICEF/UNI675775/Elfatih

### 2024年の成果例

**2,600万人の学校に通えていない子どもと若者に、教育の機会を提供しました。**

## 水と衛生

世界で安全に管理された飲み水を利用できる人の割合は73%にまで改善してきていますが、1億1,500万人はいまだ池や川など未処理の地表水を使用せざるを得ません。給水設備の整備に加え、トイレや石けんを使った正しい手洗いの普及のための活動をすすめています。



© UNICEF/UN0832031/Quintero

### 2024年の成果例

**3,300万人以上が安全な水を、1,800万人以上が基礎的なトイレを使えるようになりました。**

## 子どもの保護

紛争・貧困など様々な環境下で推定3億人の子どもたちが暴力や搾取の危険にさらされています。特に厳しい状況にある子どもたちを保護できる仕組みや法の整備、家族への支援、メンタルヘルスへの取り組みなど、子どもを守る環境づくりを支援しています。



© UNICEF/UNI755264/Dejongh

### 2024年の成果例

**暴力を経験した620万人の子どもが、保健・福祉・司法等のサービスを受けました。**

# ミャンマー指定募金による支援活動例

※2024年度(10年目)の募金は2025年7月～2026年6月に現地で活用されています。

## 「ミャンマーの女性と子どものための栄養支援プログラム」

ミャンマーでは、慢性的な栄養不良に苦しむ子どもの割合が高く、母親である女性たちの乳幼児に対する食習慣についても知識が十分に行き届いていません。また、2021年2月の政治的危機以降、経済が混乱し、食料価格も高騰しています。また、2025年3月にミャンマー中部を襲った大地震の影響も大きく、残念ながら子どもたちの栄養状態は悪化していると考えられます。このプログラムでは、ミャンマーの栄養状況の良くない地域で暮らす子どもたちのために、地域の保健ボランティア等への栄養指導の研修や微量栄養素の提供などを引き続き実施します。

### <具体的な活動例>

1. 質の高い栄養指導を行う医療従事者・保健ボランティアの育成
2. 微量栄養素を乳幼児に配布
3. 栄養不良児の早期診断と栄養治療食等による治療の提供
4. 栄養改善に向けた意識・行動変容のための広報活動

### <2015~2023年度の募金(第1~9期)の活動・成果例>

現地での活動期間: 2016年7月～2025年6月

- ・8,232人の医療従事者や保健ボランティア等へ「乳幼児の栄養改善」についての研修を実施
- ・約69,700人の子どもに微量栄養素パウダーを提供
- ・栄養治療食などで栄養不良に苦しむ子ども2,871人を治療
- ・乳幼児の栄養改善カウンセリングを約92,900人のお母さんへ

※2021年2月以降の政治的混乱後もユニセフは活動を継続していますが、政治的に中立の立場で、国内外のNGOや地域の保健団体等とのパートナーシップを通じて支援活動を行っています。



© UNICEF Myanmar/2025

## ★ ミャンマー：支援の現場から

### 家族を救った栄養支援

エーヤワディ管区カ・ニン・グ村。ささやかな竹づくりの家の外で、末っ子を膝の上に抱くドー・キン・タイ・ルインさん。目を潤ませながら、息子を失うかもしれないと思った恐怖を話してくれました。ドー・キン・タイ・ルインさんは、4人の子を持つお母さんです。夫は日雇いで、どんな仕事でもやりますが、手取りはわずかです。栄養価の高い食事はおろか、米を買うのもやっとの日が続いていました。



ドー・キン・タイ・ルインさんと末っ子のマウン・チャウ・テッちゃん  
©UNICEF/Myanmar/2025

「授乳できるときは授乳しましたが、十分ではありませんでした。」そんなときにはじまったのが、ユニセフの支援でした。保健ボランティアが一軒一軒を訪ねながら、子どもたちを健診に連れてくるよう家族に呼びかけました。ためらうことなく息子を連れていくと、生後18ヶ月のマウン・チャウ・テッちゃんは重度の急性栄養不良であったことが判明しました。上腕の太さはわずか11.3cm、非常に危険と診断されました。「そう言われたとき、胃がギリギリと痛んだことを覚えています。手遅れだったらどうしよう。」支援により、手遅れにはならず、マウン・チャウ・テッちゃんは、すぐに外来治療に登録され、栄養治療食を受け取りました。「保健ボランティアは、栄養治療食をくれただけではありません。地元の食材を使ったお粥の作り方、母乳を与える頻度、きょうだいたちに食べさせる方法などを教えてくれました。」10週間も経たないうちに、食欲は戻り、上腕は13.1cmまで太くなりました。笑い、遊び、歩く姿は見違えるようです。「支援がなかったら、どうなっていたか…」お母さんは、恐怖から解放されました。